町は、今

情景の変化とともに徐々に日常が戻り始めたまち並み

活断層付近のみならず、広範囲にわたるおびただしい数の家屋や道路、建造物が破壊された益城町。

発災後、常に大渋滞を起こしていた主要な道路は徐々に整備が進み、復旧・復興に向けたさまざまな動きが始まっています。

損壊家屋が並び、歩くのも危険な状態となっていた箇所も、現在、解体撤去作業が進んでいます。馴染みの景色が失われることに、悲しさと寂しさを感じつつも、まちなかを歩くとき、少しずつではありますが、落ち着きが感じられるようになってきた気もします。

公共インフラのうち、電気、上下水道、ガスなどのライフラインは仮復旧から本復旧へと移行しています。学校や体育館などの公共施設も国による災害査定が終わり、これからいよいよ本格的な復旧事業に入ります。県道熊本高森線の4車線化など、新たなまちづくりに向けた動きも始まりました。

町内各地の状況

1寺迫交差点。道路や信号が復旧し、円滑な車の往来が見られる。
2家屋被害が甚大な寺迫地区。解体による撤去が進む。
3田中橋。崩落した橋梁の撤去と護岸の工事が行われている。

一年前 → 現在

被害状況について

被害の状況

（平成29年3月20日現在）

【人的被害】

直接死	20人
災害関連死	14人
重　傷	131人
軽　傷	31人

【家屋（住家）被害】

全　壊	3，024棟
半　壊	3，208棟
一部損壊	4，351棟
計	10，583棟

日常のまちなか

震災前と全く同じとはいきませんが、前を向き日々の生活を送る人々、そしてまち並み。

地震は私たちの心に暗い影を落としましたが、それを振り払うような活気を取り戻したいと皆が思っています。